

## 第5章

# 環境活動

*ピックアップハイライト	50
*環境マネジメントシステム	52
*メンバー活動における環境保全の取り組み	54
*行政や MELON との連携	56
*環境配慮商品の拡大普及	57
*リサイクルセンターの取り組み	58
*温暖化防止自主行動計画	59
*環境管理データ	60
*環境保全に伴う会計や法規制	61
*環境監査・審査報告	62

# ピックアップハイライト

## 1. レジ袋有料化拡大

### (1) 有料化の推移

みやぎ生協は、ゴミの削減のためにレジ袋を削減することは大切なことと考え、1980年代からメンバーの皆さんと一緒に持参運動（マイバッグキャンペーン）をすすめてきております。レジ袋の有料化は、レジ袋の削減に効果が大きく、社会的に問題になっているゴミ問題や石油資源問題を解決してゆく手段として、消費者も事業者も真剣に考えなければならない問題として、住民団体、自治体、小売業者が一緒に取組む仙台方式でレジ袋有料化を拡大し、宮城県内全店舗で実施しました。

- ・2007年6月1日：セラビ幸町店で有料化スタート
- ・2007年10月1日：国見ヶ丘店、南光台店、鶴ヶ谷店の3店舗を拡大
- ・2008年7月1日：太白区の西多賀店、富沢店、柳生店、八木山店の4店舗を拡大
- ・2009年2月2日：仙台市全域の18店舗、みやぎ中央地域（多賀城、塩釜、利府、松島等）9店舗と拡大、現在35店舗で実施
- ・2009年6月1日：県南地区の12店舗に拡大

\*高砂衣料館は、レジ袋有料化実施店からは対象外となっております。

### (2) マイバック持参率とその効果

- ①レジ袋有料化店舗のマイバック持参率は、有料化前の35%から87%と向上しました。
- ②未実施店舗も含め、みやぎ生協全体で58.0%となりました。

店舗名・期間	①期間中レジ袋削減枚数	②原油換算(ℓ)	③CO <sub>2</sub> 換算(kg)	④レジ袋ゴミ換算重量(kg)	⑤緑の基金(円)
全店合計	34,383,000	474,500	825,200	195,000	990,939

③マイバックの持参による効果は以下の通りです。。

- ・レジ袋195t/年削減は、仙台市340世帯のゴミ1年分になります（1世帯のゴミ0.573t/年（07年度）
- ・CO<sub>2</sub>排出825.2tの削減は、サッカーボールで8,252万個分になります。  
（CO<sub>2</sub>1kgはサッカーボール100個分）
- ・レジ袋の原料として原油474.5kℓの削減は、500mℓのペットボトルに換算して949,000本分の削減になります。

## 2. リサイクルセンターで生産した野菜を販売しました。

07年度にみやぎ生協のリサイクルセンターで堆肥化実験を行ってきた堆肥を、08年度から宮城県エコファーマー第1号である田尻の佐々木陽悦氏の畑へ試験提供しました。

その堆肥を使用して生産されたトマト2,450kg（4月～7月）、ミニトマト3,200パック、ナス7,650kg（5月～9月）を、みやぎ生協の古川南店、高森店、明石台店、桜ヶ丘店、利府店に出荷し、店舗の旬菜市場で販売しました。



みやぎレジ袋使用削減取組協定締結式



レジ袋有料化店舗



旬菜市場

## “こ～ぶの森”づくりがひろがりました

### 1. 新しい“こ～ぶの森”「貞任山（さだとうやま）」へ植林しました

アルミ缶の売却益やメンバーからの募金で作っている“こ～ぶの森”。2008年度は新しい“こ～ぶの森貞任山”（南三陸町志津川）にクリ、コナラ、ヤマザクラなどの多種類の広葉樹を植林しました。県内5箇所のこ～ぶの森の総面積は16.61ha、植栽本数は37,839本になりました。貞任山は、みやぎ生協産直志津川湾産生力キのふるさと志津川湾を望む高台にあります。降った雨は山の養分を含んで湾へと運ばれ、産直生力キを育みます。4月26日（土）に行った植林体験会は、南三陸町、宮城県漁業協同組合志津川支所、南三陸町森林組合、みやぎ生協の協同の取り組みとして開催し、130名の参加のもとで、山と海、消費者と生産者のつながりを知る機会になりました。



「こ～ぶの森貞任山」植林体験会

### 2. 森を育てる体験会を行いました

こ～ぶの森を舞台に自然観察会やツル切り・下草刈などの体験会を開催し、のべ50人が参加しました。



「こ～ぶの森立神山」下草刈体験会

### 3. こ～ぶの森への支援が広がりました

昨年度もご支援をいただいたキリンビバレッジ様（ペコロジーボトルキャンペーン）に加え、ロッテアイス様（アイス・クーリッシュキャンペーン）との共同キャンペーンによる募金が寄せられました。さらに、みやぎ生協オリジナル車検の提携工場様から、車検1台につき100円の募金も始まり36万円の募金をお寄せいただき、お取引様からのご支援が広がりました。



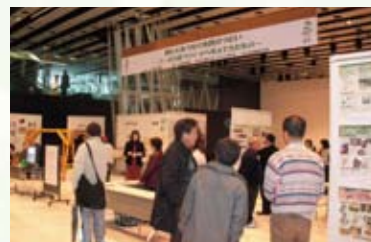
キリンビバレッジ様からの募金贈呈式



生協車検提携工場のみなさん

### 4. 森をテーマにシンポジウムを開催しました

こ～ぶの森の活動をお知らせし、これからの森づくりについて考えていくためのシンポジウム「森と人をつなぐ市民のつどい～“こ～ぶの森”づくりから見えてきたもの～」を1月31日（土）に、せんだいメディアテークで開催し、300人余りの方が会場を訪れました。また、当日は「こ～ぶの森づくり」を多くの方に知ってもらうために作成し、完成したばかりのビデオも上映しました。シンポジウムへの参加や展示コーナーでの体験を通じて、こ～ぶの森への理解がすすみました。



森と人をつなぐ市民のつどい

# 環境マネジメントシステム

## 環境理念・環境方針

### 環境理念

みやぎ生協は、メンバー（生協組合員）と職員の活動や事業における取組みを通して環境負荷の低減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献します。私たち自身のライフスタイルを見直すとともに、生産から流通・消費・廃棄までの製品のライフサイクルの各段階における環境負荷の低減をすすめ、社会的システムづくりへの提言などをおこない、もって持続可能な環境保全型の社会実現に寄与します。

### 環境方針

- みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、事業活動、商品、サービスが環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を設定し、定期的に見直すことによって環境マネジメントシステムとパフォーマンスの継続的な改善・向上を図ります。
- みやぎ生協は、環境関連の法律、規制、条例及びその他の受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守するとともに、必要に応じて自主基準を制定し管理を進めます。
- 環境汚染の予防に努めると共に、みやぎ生協の事業活動及び商品、サービスの環境に与える著しい影響を特定し、以下の課題を中心に環境保全活動を行います。
  - 低炭素社会構築に向けて「みやぎ生協温暖化防止自主行動計画」を制定し、CO<sub>2</sub> 排出削減につながる諸施策を進めるとともに、CO<sub>2</sub> 総量での削減を検討します。
  - 循環型社会構築に向けて、一般廃棄物の削減のためにごみの削減につながる商品の値引き廃棄口の削減や廃棄物自己処理システム（リサイクルセンター）により、廃棄物の再資源化と食品リサイクル率の向上を図るとともに、レジ袋と商品の容器包装の削減を進めます。
  - メンバーと共に環境に関する学習の普及啓発や、生物多様性を含めた環境保全活動を深めます。
- 定型教育、部内報、事業所毎の会議等により、職員に対する教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

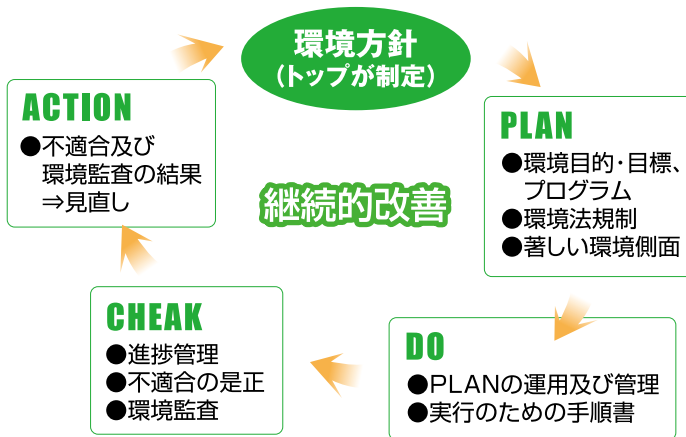
この環境方針は、生協内外に公表します。

改定日 2009年5月  
みやぎ生活協同組合  
専務理事 宮本 弘

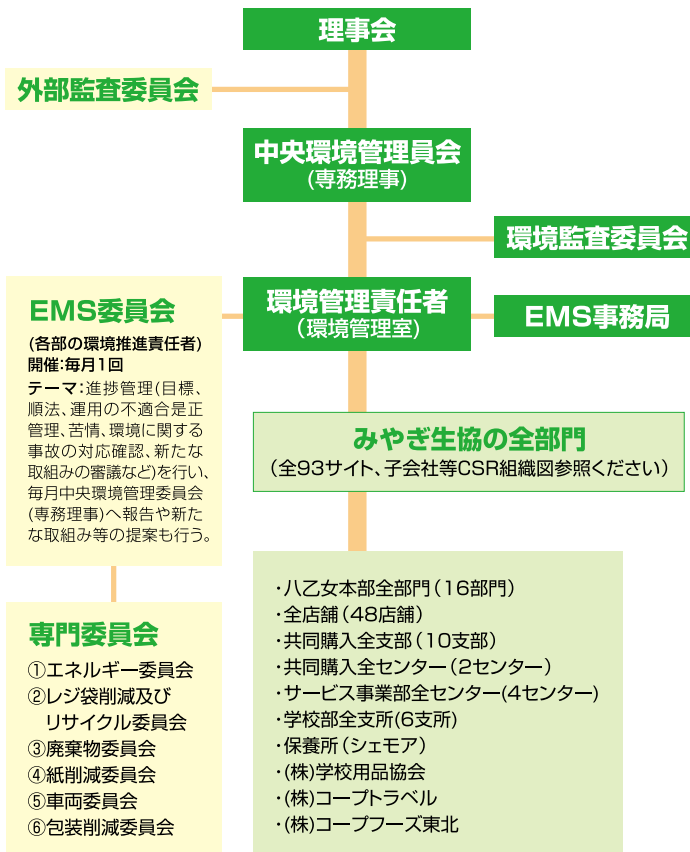
## 環境マネジメントシステムの推進と活動の歩み

### 環境マネジメントシステムの推進 (PDCAサイクル)

1998年度にISO14001認証を取得して以来、PDCAサイクルに基づくEMS(環境マネジメントシステム)を構築して運用しています。



### 環境管理体制



### みやぎ生協の環境活動の歩み

#### 2008年度の主な活動

- ・レジ袋有料化を47店舗中35店舗まで拡大
- ・共同購入車両にBDF車を4台走行
- ・カーボンオフセット商品 ecoバナナ、飲料自販機、アイス、エコ車検の売上金の一部を「こ〜ぶの森」への植林に募金
- ・ISO14001の2年次サーベイランス(11年目)

2007年	レジ袋有料化実験開始。メンバーに「電気ダイエット」を広め環境省の「一村一品・知恵の環作り」県大会で入賞。共同購入車両にBDFを利用。「こ〜ぶの森」支援自販機を開始、募金。省エネ対策として「見えタロー」の導入。ISO14001の1年次サーベイランス(10年目)
2006年	共同購入にディーゼルハイブリッド車を新たに5台導入。仙台市グリーンペーパー登録店に登録。肉端材の再資源化開始(23店舗)。リサイクルセンターの稼働。省エネ対策としてESCO事業の導入。ISO14001の3回目の更新。粗大ゴミの硬質プラ、スチールを再資源化開始。レジ袋有料実験の公表。
2005年	廃食油の一部をBDF燃料へ再資源化。仙台市エコニコ事業所に全事業所登録。
2004年	温暖化防止自主行動計画を策定。レシート記録紙の再資源化を開始。マイバッグ持参デーの開始。
2003年	非発泡スチロールトレーの回収を開始。仙台市の紙回収庫の設置協力を開始。
2002年	廃プラスチックの再資源化を開始。
2001年	店舗魚腸骨を自販機紙コップの再資源化とたまたまバック回収を開始。
1999年	共同購入のチラシ回収を開始。マイバスケットを導入開始。
1998年	ISO14001認証取得し、みやぎ生協の環境活動を総合的に推進。ペットボトルの回収を開始。
1995年	LPG車の導入を開始。環境報告書を作成し公表。
1994年	コピー紙などの再資源化を開始。廃職油の再資源化。
1993年	ニカド電池&ボタン電池、クリーニングハンガーの回収再利用を開始。みやぎ環境とくらしネットワーク(MELON)設立。
1992年	アルミ缶の回収を開始。発泡スチロールトレーの回収を開始。二酸化窒素の県内調査と水辺の観察測定活動を始め。「こ〜ぶの森」(植林活動)の取り組みを開始。
1991年	酸性雨の県内調査を開始。「COOP 緑の基金」設立。
1990年	レジ袋節約スタンプの取り組みを開始。牛乳バック回収を開始。

# メンバー活動における環境保全の取り組み

## リサイクル活動や買い物袋持参の取り組み

### 1. メンバーによる環境保全活動

みやぎ生協は1990年度から牛乳パック回収、1991年度から酸性雨一斉測定、1992年度から水辺の観察と水質測定、“こ〜ぶの森”づくりなどを開始し、メンバーとともに環境問題と私たちのくらしの関わりについて学習し、環境保全の活動を継続して行っています。

### 2. リサイクル活動とレジ袋削減

みやぎ生協が取り組んでいるリサイクル活動への参加を拡げ、家庭からのごみ削減に取り組みました。トレー回収についてのチラシを作成し、環境デーの取り組みで活用したり、店舗に拡大コピーして掲示するなどトレー回収への理解を深めました。

7月1日から始まった太白区内4店舗でのレジ袋有料化実験開始、2009年2月2日からの仙台市内全店、みやぎ中央地域9店舗の有料化開始に向け、お知らせ活動をメンバーと事業が一体になって行いました。全店でのレジ袋削減率も2007年末には52.7%が2008年末には70.4%になり、レジ袋削減が大きくすすみました。



八木山店でのお知らせ活動

## 環境活動への参加を広げて「くらしの見直し」

みやぎ生協温暖化防止自主行動計画「省エネエイト」を様々な場面で普及しました。

### 1. 「1日エコライフ」

みやぎ生協がすすめている「省エネエイト」の実践版として、温暖化効果ガス削減を目的に10のエコライフ項目を行う「1日エコライフ」を、メンバーと職員に呼びかけ、6月～7月にかけ実施しました。1,770世帯5,795人が参加し、この取組でのCO2削減量は約4.8tになりました。

また、継続してエコライフに取り組んでいくために「くらしの中からストップ温暖化～環境学習会～」を10月27日（月）に生協文化会館ウイズで開催しました。盛朋子さん（宮城テレビアナウンサー）を講師に迎え、140人が参加しました。



「くらしの中からストップ温暖化！」学習会

### 2. 電気ダイエット

「省エネエイト」の実践として家庭の節電に取り組みました。「電気使用量のお知らせ」に記載されている前年度の使用量と今年度の使用量を比較し、どの位ダイエット（節電）できたか比べます。参加者は「電気ダイエットのヒント」を参考に節電に取り組みました。2008年度は10月度の1ヶ月間と1月～12月の1年間の2通のメニューに取り組みました。

10月度1ヶ月間の取り組みには1,678世帯が参加し、ダイエットに成功した世帯は909世帯（54.2%）、削減電気使用量は26,169kwh、CO2排出削減量は10,729.3kg（CO2排出係数を0.410kg/kwhとして算出）になりました。1年間の取り組みには186世帯が参加し、削減電気使用量は3,143kwhになりました。

### 3. 測定活動

酸性雨測定（6/11～7/10）には2,139地点（昨年2,537地点）で、水辺の観察と水質測定（7/20～8/21）には943人の参加（昨年664人）、123地点で測定が行われました。安全な水辺の楽しみ方や水質測定の仕方を学ぶ観察会を2回開催しました。

「定義・ホタル観察会」には26人の参加、「蛇石せせらぎ公園観察会」には21人の参加があり、ホタルの生態やダム の現状などを学習し、水環境を考えるきっかけになりました。



水辺の観察会 蛇石せせらぎ公園

### 4. 環境学習

7月26日に文化会館ウイズで「親子環境学習～酸性雨ってどんな雨～」を開催し、27人が参加して酸性雨の原因や影響について実験などを交えて学習しました。

講師に北條祥子尚絅学院大学教授を迎え、尚絅学院大学生活環境学科の学生7人が実験のサポートを行い、環境学習の実践の場としての協同の取り組みになりました。



「酸性雨ってどんな雨」学習会

「わいわいの素」などで活動テーマの発信を行い、こ～ぷ委員会など47箇所（昨年49箇所）で、のべ884人を対象に学習会が開催されました。

10月から開始された仙台市ゴミ回収有料化に伴い「ごみ減量」をテーマにした学習会が24会場で、6月・7月に行った「1日エコライフ」をテーマにした学習会が11会場で開催されました。みやぎ生協環境研究会を中心に講師活動を行い、メンバー同士の教えあい学びあいをすすめました。



「ごみ減量」にていての学習会

小中学校の総合学習として「地球温暖化」や「リサイクルの取り組み」のテーマで3校から講師依頼がありました。また社会学級や市民センターからは「ごみ減量」等のテーマで依頼があり、講師を派遣しました。

環境ふれんずニュースをメンバーによる編集委員会で、「CO<sub>2</sub>ダイエット」や「省エネの工夫」、「レジ袋削減」等をテーマに年間3回発行しました。

# 行政や MELON との連携

## 行政や MELON を中心とする環境諸団体とのパートナーシップ



仙台市エコフェスタ 2008

1. 行政が取り組む環境行事等へ実行委員として参加するなど積極的に関与しました。仙台市「エコフェスタ2008」(9月7日:勾当台公園市民広場)、「環境フォーラムせんだい2008」(12月7日:せんだいメディアテーク)、石巻市、気仙沼市、柴田町、加美町、利府町などの地域で行政や市民団体と協同で環境の取り組みを行いました。



仙台市環境フォーラム 2008

2. 仙台市「杜々環境レスキュー隊(環境学習プログラム)」で、みやぎ生協「街かど環境ウォッチング 酸性雨編」を6月25日に仙台市立片平小学校4年生61名、7月14日に仙台市立松陵小学校6年生7名を対象に実施しました。

3. (財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)への支援と協同の取り組みをすすめました。

MELON 環境市民講座「洞爺湖サミットに届け、おおさきサミット」を地域のメンバーに呼びかけ、5月31日に古川南店集会室で開催し、60人の参加がありました。



MELON 環境市民講座 おおさきサミット

4. MELON や宮城県地球温暖化防止活動推進員と環境学習実践のための情報交換を行いました。

また、地球温暖化の原因や現状についての学習で講師を派遣、省エネの普及活動で連携を深めました。

# 環境配慮商品の拡大普及

## 商品を通して自然と環境への配慮

みやぎ生協は「環境配慮商品基準」を作成し、商品の開発、利用・普及を通して、環境負荷低減、省エネ・省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献できる商品を環境配慮商品として、取り扱いを拡大することに継続して取り組んでいます。

### 環境配慮商品基準「4つの視点」

1. 化学物質による環境汚染の低減をはかる商品
2. 廃棄物の削減につながる商品
3. 省エネ、省資源、枯渇資源の保護につながる商品
4. 水環境の保全につながる商品



環境配慮商品

### 08年度の特徴的な取り組み

- ①店舗の産直コーナー「旬菜市场」に産直の取り組みを紹介するDVDを新たに9店舗に設置しました。新規に作成した10種類のPOPと合わせてお知らせが進んでいます。
- ②新規産直の大分県産養殖ぶりは大きく供給を伸ばし、産直全体の数値を底上げしました。
- ③加工食品の環境配慮商品は208品目で前年から10品目増やすことができました。新商品の詰替え商品・有機商品が増え、全体の実績増になりました。
- ④COOPレンジ&食品ラップは商品特徴POPを詳しくお知らせすることで供給個数は前年比105%と伸びています。

### 環境配慮商品の供給実績

08年度商品供給高を伸ばす取り組み

部門	商品供給金額	前年比 (%)
デ イ リ ー	84,416 万円	104.2%
果 物 産 直	21,054 万円	99.6%
野 菜 産 直	83,078 万円	104.0%
水 産 産 直	49,453 万円	107.8%
畜 産 産 直	13,820 万円	104.4%

08年度商品供給数を伸ばす取り組み

部門	商品供給数	前年比 (%)
加 工 食 品	993,649 個	119.8%
生 活 関 連	4,033,032 個	106.8%

### 環境に配慮した地産地消の取り組み

「食の安全」や「地域の食文化、農業・漁業文化」を守ることと合わせ、環境面ではフードマイレージの視点（生産地と消費地が遠くなると輸送エネルギーがより多く必要）や環境への負荷が少ない持続可能型の農・水・畜産業の推進をめざし地産地消の取り組みを進めています。

産直商品の普及とともに、産直商品の良さと産地の自然環境を知っていただく「産直学習塾」を開催し08年度は約700名のメンバーが参加しました。

### 「産直学習塾」を開催した産直商品

いちご・梨	若鶏
トマト・各種野菜	豚肉
銀鮭・うなぎ	大沼牛
わかめ・カキ	牛乳「鳴子・角田」
ぶり	卵・蔵王卵
大豆・納豆	ふるさと米

# リサイクルセンターの取り組み

## 「みやぎ生協リサイクルセンター」の取り組みと再資源化など

「みやぎ生協リサイクルセンター（以下、RC）」が、本稼動して2年を経過しました。RCを設置した目的は、店舗・支部・本部から出る廃棄物を自ら収集、分別、再資源化又は廃棄物の抑制などを行うことにより、みやぎ生協の事業から発生する環境負荷を低減することです。本システムは、小売業チェーンが自前でリサイクルに取り組むのは全国でも初めてのことで

### 1. 野菜果物くずの再資源化

- (1) 野菜果物くずの回収量強化を図る為、各店の農産部門に分別排出の呼びかけを行い、08年度の回収量は807t（前年601t）と前年比134%の回収量になりました。
- (2) 堆肥の生産ですが、夏場は含水率が高くなかなか発酵が進まない状態でした。9月に種菌を追加し攪拌と切り返しのローテーション調整やバックブレンダー（戻し堆肥）の量調整など実験を行いながら生産を行い、堆肥の生産量は168tになりました。
- (3) たじりエコベジタブルで堆肥を実験使用し、生産されたミニトマト・トマト・ナスをみやぎ生協5店舗の旬菜市場で販売しました。また、田んぼにも実験使用し生産されたお米の試食会を行い、本部職員に限定販売を行いました。（生産量が少なく、本部職員への限定販売としました）
- (4) JAみどりの「田尻産直委員会」・たじりエコベジタブルと堆肥の売買契約を結びました。
- (5) 田尻産直委員会で産直米の田んぼの一部に堆肥を使用していただきました。

### 2. その他

各事業所から排出される粗大ごみの内、RCで手作業により金属、プラ、混在と分け、量は少ないのですが金属くず（什器の棚、傘の柄など）を有価物として再資源化できるように改善を図りました。

## 08年度の再資源化量

RCで回収し有価物処理又は産廃処理物の内訳

種類（再資源化の内容）	処理量	備考
ダンボール（古紙）	6,148.5t	有価物
チラシ（古紙）	3,428.2t	有価物
模造・雑誌（古紙）	216.1t	有価物
牛乳パック（コアノンロール）	202.8t	有価物
発泡スチロール（プラ原料）	204.0t	有価物
魚腸骨（飼料・肥料）	410.0t	有価物
卵パック（PET原料）	9.9t	無料
野菜・果物くず	807.3t	堆肥製造
廃プラ（固形燃料）	190.0t	産廃（高炉還元剤）
鉄くず	7.9t	有価物
廃蛍光管	4.6t	産廃（原料化）
金属・ガラス・硬質プラ・木くず等	7.8t	産廃

RC以外で回収し有価物処理（参考）

種類	処理量	備考
肉端材	165t	有価物
ビン	28.8t	有価物
アルミ缶	51.1t	有価物
スチール缶	49.2t	有価物
PET	63.0t	有価物

RC視察受入状況 08年度（08年4月度～09年3月度）

団体名	視察件数	視察人数
みやぎ生協各委員会	13件	259名
各行政	14件	16名
他企業	11件	33名
学校関係	2件	119名
他生協	4件	16名
合計	44件	443名

## みやぎ生協リサイクルシステムの全体フロー



# 温暖化防止自主行動計画

## 低炭素社会づくりに向けたみやぎ生協の取り組み

店舗や事業所での電気やガスなどの使用、共同購入の配送や物流での燃料使用など事業活動に伴ったエネルギー使用により二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を排出しています。

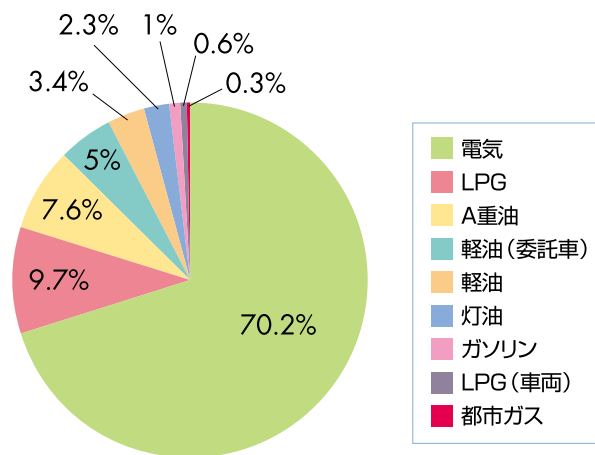
みやぎ生協では低炭素社会づくりに向けたCO<sub>2</sub>削減のための自主行動計画を策定し、「省エネ設備の導入などのハード面」「エネルギー使用の無駄を減らすソフト面」「暮らしを見直す省エネエイト」等を行ない、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

- 08年度CO<sub>2</sub>排出量総量は07年度43,396tから43,710tと前年比100.9%でした。
- 08年度の新店を除く既存店と各施設のCO<sub>2</sub>排出量は前年比96.8%と削減されました。07年度42,767t、08年度41,396t(前年比96.8%)でした。店舗の省エネ対策として電気使用量を管理するための監視機器を36店舗に設置すると共に電気使用の無駄を減らす取り組みを個店毎に徹底しました。この結果8月度以降の電気使用量は既存店で07年度比95.0%に削減しました。
- 08年度の取り組みの中で削減したCO<sub>2</sub>は2,223tでした。
  - 既存店の省エネ管理を進め、主に電気使用量の削減で1,371t
  - 共同購入の低燃費車入替とBDF（バイオディーゼル）燃料への切替えて27t
  - レジ袋の無償配布中止によるレジ袋の削減で825t
 ※施設面では、24店舗のESCO事業を継続する一方、新店にも省エネ機器等を積極的に導入しました。  
 新店3店舗に導入した省エネ設備は、従来設備との比較で198tのCO<sub>2</sub>が削減されました。

(08年度CO<sub>2</sub>排出量と構成比)

項目	CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	前年比 (%)	構成比 (%)
電 気	30,698	102.0	70.2
L P G	4,220	92.9	9.7
A 重 油	3,314	102.7	7.6
軽油(委託車)	2,192	104.9	5.0
軽 油	1,486	96.5	3.4
灯 油	992	88.5	2.3
ガ ソ リ ン	423	117.0	1.0
L P G (車両)	255	90.8	0.6
都 市 ガ ス	131	96.5	0.3
計	43,710	100.9	100
供給あたりの排出量/億円	43.4	100.9	

(使用エネルギーの構成比)



### その他の取り組みについて

- 共同購入では、店舗から回収した廃食油を精製し燃料化したBDF（バイオディーゼル燃料）で走行する車両を07年度は、1台実験運行、08年度は燃料供給事業者を増やし、2支部5台で運行しています。
- レジ袋の無償配布中止により、47店舗中35店舗を有料化し、実施店の持参率は87%、全店舗の持参率は07年度46.9%から58.0%になりました。
- 一ヶ月電気ダイエットを08年度も実施、年間でも取り組みました。
- メンバーと職員が参加した1日エコライフに5,774人が参加し約4.8tのCO<sub>2</sub>削減ができました。
- 事業所内の「クールビズ」を6月1日～9月30日、「ウォームビズ」を11月1日～3月31日の期間取り組みました。

# 環境管理データ

## データで見る再資源化の推移

### メンバー・事業による再資源化（回収量）



### 事業での分別による再資源率 77.1%（前年より 2 ポイント向上しました）

#### ■大気及び河川への排出

事実上排出される CO<sub>2</sub>……43,716t（委託車両含む）  
 BOD 排出量（コープフーズ東北）………0.7t

#### ■廃棄物

廃棄物の排出量（再資源化以外）………4,803t  
 廃家電品排出量………1,562t

### 事業から発生する排出量を分別再資源化した量：16,203.3t

項目	回収量	再資源内容
紙	1,618t	古紙に再生
ビン・缶	129t	アルミ缶は緑の基金、スチール缶・ビンはそれぞれ再資源化
発泡スチロール	265t	再生プラスチック
ダンボール	7,371t	古紙に再生
食用廃油	315t	インク・ペットフード・飼料原料
おから	1,329t	家畜飼料

項目	回収量	再資源内容
魚腸骨	410t	家畜飼料・肥料
牛脂	165t	サラミ・抽
揚げロス	35t	家畜飼料
廃プラスチック	190t	高炉還元剤
蛍光管	141t	原料化
野菜・果物クズ	807.3t	堆肥化
チラシ	3,428t	古紙の再生

# 環境保全に伴う会計や法規制

## 環境会計、法規制、苦情、コミュニケーション

### 環境会計

#### 環境保全コスト

単位：万円(千円以下切捨て)

事業エリア内コスト：生協が直接影響を及ぼせる範囲内で環境負荷を低減させる取組み			投資額			費用額		
分類	主な取り組みの内容		08年度	07年度	06年度	08年度	07年度	06年度
内訳	-1 公害防止コスト	大気・水質・土壌汚染防止のための保守点検費	420	415	470	6,249	6,063	5,416
	-2 地球環境保全コスト	調光システムの導入やコーゼレーション機器等の減価償却費	8,294	13,785	45,558	6,144	13,119	10,884
	-3 資源循環コスト	廃棄物の処理、廃プラ、廃食油、生ごみの再資源化費	670	0	0	21,738	20,130	23,697
上・下流コスト	グリーン購入や環境配慮商品の供給促進費		0	0	0	2,773	7,488	7,483
管理活動コスト	ISO 審査、事業所緑化費等		1,938	0	471	789	721	783
調査研究活動コスト	産消提携推進協議会等		0	0	0	64	145	142
社会活動コスト	組合員の環境活動支援、NPO 等への寄付		0	0	0	1,862	1,166	1,467
環境損傷コスト	ホームタンク漏洩回収費		0	0	0	0	31	0
計			11,322	14,200	46,694	39,619	48,864	49,872

#### 環境保全対策に伴う経済効果

単位：万円(千円以下切捨て)

効果の内容		08年度	07年度	06年度
収益	リサイクルによる有価物の売却収入(アルミ缶、紙パック、チラシ、ダンボール、牛脂、魚)	18,586	13,031	7,399
経費節減-1	マイバック運動によるレジ袋代金	6,484	5,058	3,977
	省エネ、省資源による経費の削減	1,238	1,802	1,455
	発生抑制又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	1,091	3,011	4,957
	コピーカウント削減	654	223	630
	計	28,053	23,125	18,418
経費削減-2	値引き廃棄ロスの削減(店舗運営本部)	5,100	2,475	27,800
	“(共同購入商品本部)	0	4,054	-1,110
計		5,100	6,529	26,690

\*仙台市一般廃棄物処理費：25,500円/t、レジ袋1.5円/枚、コピーカウント3.5円/枚(用紙代含まず)で算出

#### 環境保全効果(エネルギー使用量や廃棄物量の削減効果)

①環境保全効果を表す指標 (みやぎ生協の全事業所で職員、パート、アルバイトが取り組んだ効果)			実績値			08年度の取組みの効果【07年度差】 ( )は環境負荷増	
			08年度	07年度	06年度		
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入	電気	万kwh	7,981	61.4	7,658	(200万kwhの増加)：ESCO事業等の省エネ機器導入や自主行動計画の取組み等
		都市ガス	km <sup>3</sup>	62.0	731	66.2	(0.6km <sup>3</sup> の増加)：自主行動計画の取組
		LPG	km <sup>3</sup>	697	1,250	787	34km <sup>3</sup> の減少： //
		重油	千kg	1,223	450	1,226	27千kgの減少： //
		灯油	千kg	398	158	512	52千kgの減少： //
		ガソリン車両	千kg	184	587	135	(26千kgの増加)： //
		軽油車両	千kg	570	167	650	17千kgの減少： //
		LPG車両	千kg	152	498	201	15千kgの減少： //
		水	km <sup>3</sup>	489	43,396	485	9km <sup>3</sup> の減少： //
			エネルギー消費によるCO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	43,710	1.1	42,533
事業活動から排出環境負荷及び廃棄物に関する効果	水域土壌への排出	BOD排出量	t	0.7	4,966	0.7	0.4tの減少：CFT除害施設の委託管理
	廃棄物等の排出	一般廃棄物量	t	4,803	14,974	5,376	163tの減少：リサくるセンターの稼働等
	廃棄物リサイクル量	再資源化量	t	16,203	14,974	12,830	1,229tの増加：再資源化総量

### 法規制、苦情、コミュニケーション

- 環境に関する法規制の遵守状況
  - ①環境に関する法規制は、24項目あり順守事項の逸脱はありませんでした。
- 環境に関する苦情は、1件でした。
  - 店舗のテナント様の改装工事が夜間に行われた際の工事車両の出入り音で近隣の方から苦情が寄せられました。
  - ⇒テナント様へ深夜工事を行わないように対処しました。

○環境に関するご意見59件でした。

主な意見・事例報告など	件数
レジ袋有料化関連及びマイバックなど	16件
再資源化(現在回収していない物の回収希望など)	33件
環境配慮商品、ゴミ、フードマイレージ等	10件

- 想定した環境に関する事故緊急時の発生は、ありませんでした。
- 想定外の事故は、ありませんでした。

# 環境監査・審査報告

## 外部監査、ISO審査、内部監査

### 外部監査

みやぎ生活協同組合  
理事長 芳賀 唯史 様

環境監査委員会  
委員長 高橋 春男  
委員 門田 陽子 庄子 都 佐藤 妙子 鈴木 敏央  
高橋礼二郎 豊島 義一 北條 祥子 大和きよ子

当委員会は、みやぎ生協環境管理規程第14条、同環境監査規程第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

#### 【環境監査の実施日】

2008年11月15日 2008年度上期の環境監査（書類監査、八木山店の現地監査）

2009年4月18日 2009年度の環境監査（書類監査および総合監査）

#### 環境監査報告書

みやぎ生協とメンバーの環境保全活動について、取組みが前進したこと、及び以下のことは特に評価できる。

1. 新しい環境方針として「低炭素社会の構築に向けて」「循環型社会の構築に向けて」「メンバーとともに」の重点3課題を掲げ、取組んだこと。
2. レジ袋削減のためにレジ袋の有料化実施を35店舗に拡大し、実施店舗のマイバッグ持参率を87%に高めたこと。および今年中に県内全店舗でレジ袋有料化を実施すること。
3. みやぎ生協リサイクルセンターの稼働率を高め、生産した堆肥でミニトマトなどを栽培し、旬菜市場で供給したこと。および09年1月から堆肥を商品として販売開始したこと。
4. 事業所から発生する一般廃棄物量を目標値50tに対して113tと大幅に削減したこと。
5. 共同購入車両のBDF燃料への変更や、省エネ管理推進ソフト（見えタロー等）の活用によって店舗の電気使用量を5%削減する等して省エネを徹底し、CO<sub>2</sub>削減に努めたこと。
6. 産直商品の供給高を高めることにより地産地消を推進し、またカーボンオフセット付き商品であるエコバナナ等の供給を開始したこと。
7. 「一日エコライフ」や「電気ダイエット（年間・月間）」に取り組むことにより、メンバーの省エネへの関心を高めたこと。
8. レジ袋有料化の収益やエコ車検の一部等を「緑の基金」へ募金すると共に、シンポジウムの開催を通して「こ〜ぷの森づくり」への理解を深めたこと。
9. みやぎ生協が植林を行なうことによるCO<sub>2</sub>削減効果を計るために、森林の年間CO<sub>2</sub>吸収量を定量的に評価する方法の検討を開始したこと。
10. ISO14001の審査で、連続8年間「向上」の評価を得ていること。

#### 指摘事項

1. 環境方針に掲げた「低炭素社会の構築に向けて」「循環型社会の構築に向けて」と、環境理念に掲げている「持続可能な環境保全型社会」との関連性を明確にし、環境方針と環境目的・目標との整合性を図ること。
2. 低炭素社会構築のために、みやぎ生協のCO<sub>2</sub>削減目標を原単位に加え総量の削減も検討し、排出量取引の検討やカーボンオフセット付き商品の拡大をはかること。
3. カーボンフットプリント（商品の生産から廃棄までに排出されるCO<sub>2</sub>量の表示）が表示されたCO・OP商品を拡大するように検討すること。
4. 循環型社会構築のイメージを高めるために、「事業活動と環境のかかわり（環境報告書）」の概念図にインプット・アウトプットだけではなく、その間に「循環」をわかりやすく表示すること。

### ISO審査

**実施日** 2008年10月7日～10月9日 3日間  
**審査員** 3名（日本環境認証機構）  
**審査結果** EMSマネジメントシステムの総合評価は「向上」  
**所見** 「組織の環境マネジメントシステムが継続的に維持改善されていることを確認した。新規開設の3店舗も適切に運用が開始されている。」不適合1件、改善要項2件

### 内部監査

**実施日** 2008年8月1日～10月3日  
**審査員** 36名監査18チーム(2人)  
**監査所見** 総数51件、重大0件、軽3件、観察48件  
**監査結果** 環境マネジメントシステムがISO14001の規格の要求事項に適合して構築され、適切に実施、維持され適合している。  
**その他** 内部環境監査員セミナーを開催し、新たに3名養成した。